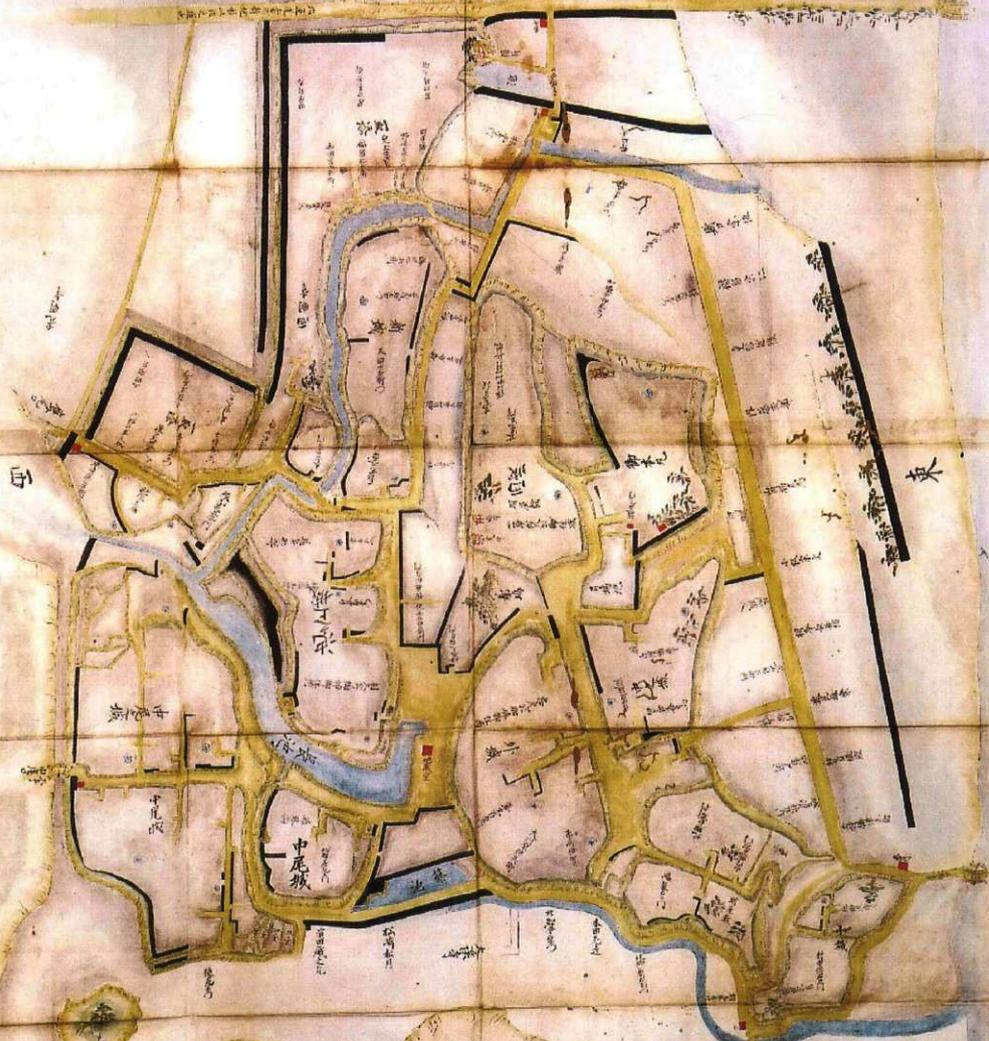


# 跡之城上之池



2010(平成22)年3月

宮崎県都城市教育委員会

南

竹之下都城御成図  
80.0cm 116.3cm

## 序

都城は14世紀後半に築かれ、2回の曲輪の増築、元和元年の廃城、そして昭和初期の鉄道敷設を経て現況を呈しています。

主な発掘調査は昭和57年中之城跡の緊急調査、昭和63年から4ヶ年間の資料館建設に伴う主郭部の調査、平成2年取添城跡の緊急調査、今回報告の池之上城跡、平成10年西城跡の緊急調査があります。

本書は平成5年度国庫補助を受け、都城跡の曲輪のひとつであります池之上城跡の現状把握を目的とした確認調査の報告書です。調査からすでに十数年の歳月が過ぎましたが、今回このようなかたちで調査成果を市民の皆様にご報告でき責務の一端を果たすことができたと考えております。また、調査成果が都城跡の整備、考古学や地域史の研究資料としてご活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査及び報告書作成にあたり、地元の皆様、都城市土地開発公社をはじめとする関係各位、作業に従事された方々に感謝申し上げます。

平成22年3月

都城市教育委員会

教育長 酒 匂 醸 以

## 例 言

1. 本報告書は、都城市教育委員会が平成5年度国庫補助を受け実施した発掘調査の一つで、中世山城都城跡の一曲輪池之上城跡の調査報告書である。
2. 本書で用いる遺構名及び略記号は、次のとおりである。道路遺構：SF 石積遺構及び石溜まり：SS
3. 本書で使用した遺構実測図は調査担当および作業員が行っている。遺物実測図は調査担当のもと整理作業員が以前作成したものと報告書担当のもと整理作業員が平成20・21年度に作成したものである。
4. 本書で使用した図の製図（トレース）は、報告書担当が行った。
5. 本書に掲載した遺構の写真撮影は調査担当が、遺物写真撮影は報告書作成担当がそれぞれ行った。
6. 本書に掲載した方位はすべて真北である。
7. 本書に関する実測図、写真、遺物等は都城市教育委員会事務局文化財課所管の施設に収蔵している。
8. 本書の執筆・編集は矢部がおこなった。

## 本文目次

1. はじめに	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の組織	1
2. 遺跡の位置と環境	2
3. 調査の記録	3
(1) 調査の概要	3
(2) 遺構について	9
(3) 遺物について	13
4. 小結	30

## 挿図目次

第1図 調査位置図	2	第13図 青花-1	14
第2図 調査区域図	3	第14図 青花-2	15
第3図 遺構配置図	4	第15図 青花-3	16
第4図 道路遺構と石積遺構	5	第16図 舶載陶器-1	17
第5図 石積遺構1	6	第17図 舶載陶器-2	18
第6図 石溜まり-1	7	第18図 舶載陶器-3	19
第7図 石溜まり-2	8	第19図 備前-1	20
第8図 銭貨出土状況及び同実測図	9	第20図 備前-2	21
第9図 土層断面図-1	10	第21図 国産陶器・土器	22
第10図 土層断面図-2	11	第22図 その他の出土遺物	23
第11図 白磁	12	第23図 掲載遺物分布図	27~28
第12図 青磁	13		

## 表目次

表1 出土遺物観察表①	22	表4 出土遺物観察表④	26
表2 出土遺物観察表②	24	表5 出土遺物観察表⑤	29
表3 出土遺物観察表③	25		

## 写真図版目次

写真図版1	31	写真図版4	34
写真図版2	32	写真図版5	35
写真図版3	33	写真図版6	36

## 1. はじめに

### (1) 調査に至る経緯

都城の城域はおおよそ27ha、南九州型城郭（群郭式城郭）と呼称され11の独立した曲輪から構成されている。近年城域の南側や取添城跡などは宅地化が進み、昭和49年5月1日付けで主郭部（本丸）のみが都城市の指定文化財となっている。昭和61年モデル木造建築物として歴史資料館建設計画が策定された。4次に亘る調査と並行しながら平成元年には歴史資料館開館に至り、その後資料館周辺の公園整備がおこなわれた。

主郭部のすぐ西隣は西城と呼ばれた曲輪が配置され、現在は狭野神社境内となっている。低地を挟んださらに西に池之上城、中尾之城、長池が位置する。一帯は平成元年から3年にかけて地元から土地区画整理事業が計画された。平成3年文化課（現文化財課）では試掘確認調査をおこなった結果、該地曲輪内の遺構がきわめて良好な状態で保存されていることが判明し、事業予定地である山城と長池の現状を保存するため公有化が計られた。池之上城跡の発掘調査は今後一帯の整備検討が計画される前段として、遺構の保存状態と分布を把握することを目的に実施した。そのため、道路遺構以外は遺構検出面で調査を終了している。調査は平成6年1月25日から同年3月30日にかけて実施した。

### (2) 調査の組織

#### (発掘作業)

平成5年度		
調査主体	都城市教育委員会	教育長 隈元幸美 教育次長 村中日出男
事務局	文化課	課長 松山 充 課長補佐 遠矢昭夫 文化財係長 海田 茂
	調査担当	主 事 横山 哲英
	調査協力	主 事 桑畑 光博

発掘作業員 野口虎男 浜田寛 中原貞良 東千歳 久留保 下田代清海 木下栄子 柳アサ子 阿久根トシエ 時吉ユキエ 瀬戸山久美子 小路スズ子 木村セツ子 中尾ハルエ 米村正子 吉村剛子 坂元トミ子 松崎みえ子 宮元孝子 立山君子 藤田フジ子 鶴松雄 福丸貞行 東前利雄 曾原主吉 樋渡正之 平川樹高 和田利雄 重永雄三 荒ヶ田安夫 南スミ子 高橋ヨシ子 蒲生ミツ子 岩切ユキ子 平川美智子 細山田登 大盛祐子 坊地トミ 児玉トシ 茶園国春 茶園フミ子 繁昌ミサト 吹上ツユ 福盛ヤエ子 柿木スミ子 柿木チエ子 森山キミエ 南崎ミツ 徳満ヨリ 児玉ワイ 皆吉ハツミ 皆吉昭一郎 堀之内ミツ子 榎木ハナ 福盛信子 福盛春夫 徳満ミツ 井之上クミ 増満順子 広村ミキ 山下フクエ 榎木ツネ 有村ナツエ 榎木ミエ

整理作業員 猪俣幸千代 池谷佳代子

#### (報告書作成事業)

平成21年度		
主体	都城市教育委員会	教育長 玉利 譲 (~H22. 2. 24) 教育長 酒匂 廉以 (H22. 2. 25~) 教育部長 石川 清
事務局	文化財課	課長 坂元 昭夫 副課長 山下進一郎
	報告書作成担当	主 幹 矢部喜多夫

整理作業員 水光弘子 尾曲真貴

## 2. 遺跡の位置と環境

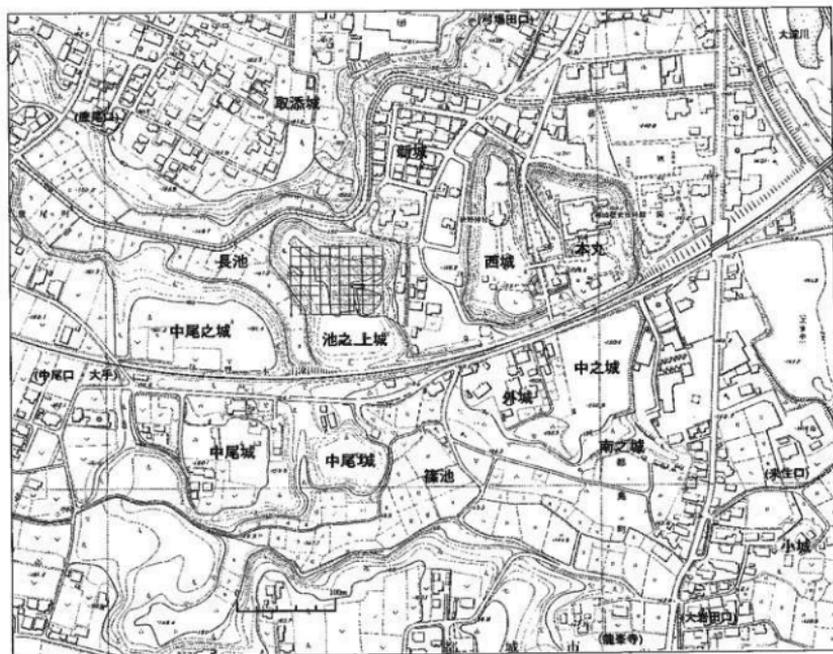
遺跡の所在地は都城市都島町917-1である。都城は大淀川西岸、河岸段丘が入り組み養原台地東端に立地する。都城は大小11の曲輪なり、その城域はおおよそ27haと広大で、池之上城は主郭部・西城の西側に位置する。ちなみに、主な曲輪の台地上での現標高を示すと、池之上城跡159～159.5m、主郭部159～159.7m、西城跡158.8～160.5m、中之城跡158.4～159m前後、河岸段丘面は140m前後、大淀川の汀線が138mほどである。

都城については鳥津資忠が戦功として北郷300町を与えられ、文和元年（1352）北郷薩摩迫に入部し北郷を名乗った、その子義久が都城を居城とした。「都城」の初見は永和二年（1376）のものと思われる書状に「ミヤこのしやう」という記述がみられ城館として用いられている。当初の城域は主郭部（本丸）、西城、中之城、外城、南之城の五つの曲輪から成っている。その後、16世紀前半八代忠相が新城、池之上城、中尾之城、中尾城、小城を増築した。取添城は伊集院忠棟のときに設けられたようである。

庄内合戦を経て、元和元年（1615）一國一城令に従い十二代忠能は下長飯村と宮丸村の境（現市役所付近）に館を構えた。その後、城山がどのように土地利用されたかは定かではないが、大正から昭和初期に国分から都城に至る国都線が財部経由となり、西都城・財部間の路線がちょうど都城城域を南北に分断するように敷設され、昭和4年開通し今日に至っている。

都城跡の発掘歴は昭和57年・平成7年中之城跡、昭和63年から平成3年主郭部、平成2年取添城跡、平成10年西城跡、平成19年八幡城跡などがある。

（参考文献） 都城市史通史編中世近世  
都城市史通史編現代



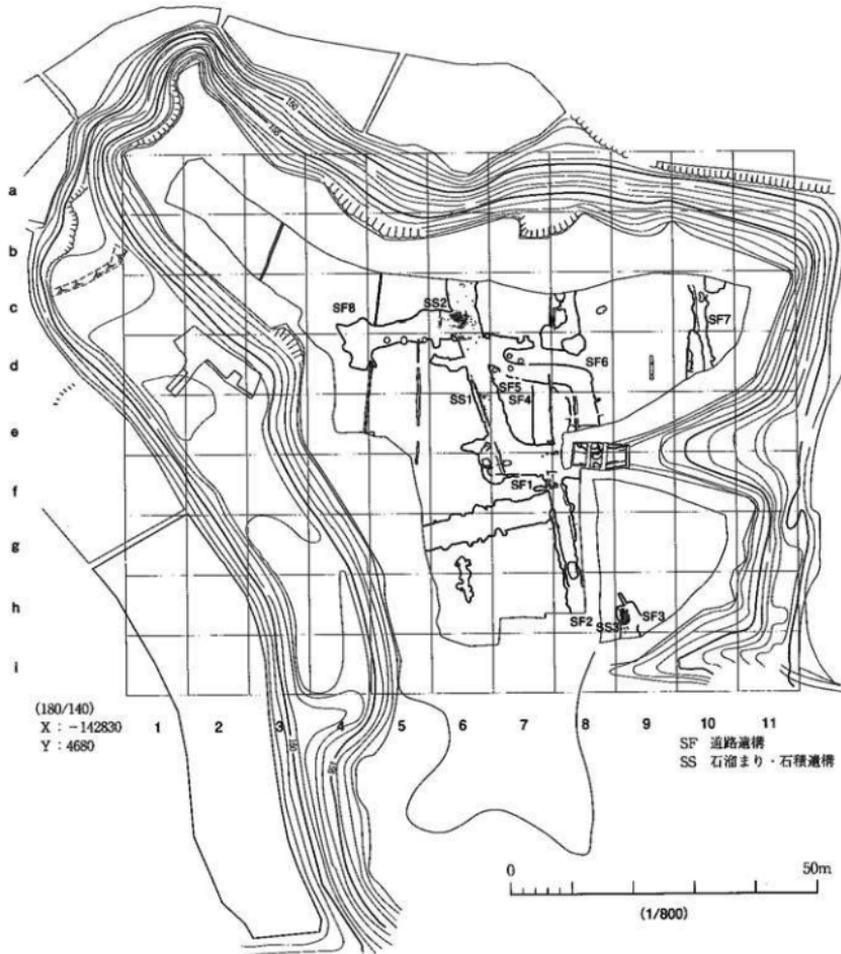
第1図 調査位置図

### 3. 調査の記録

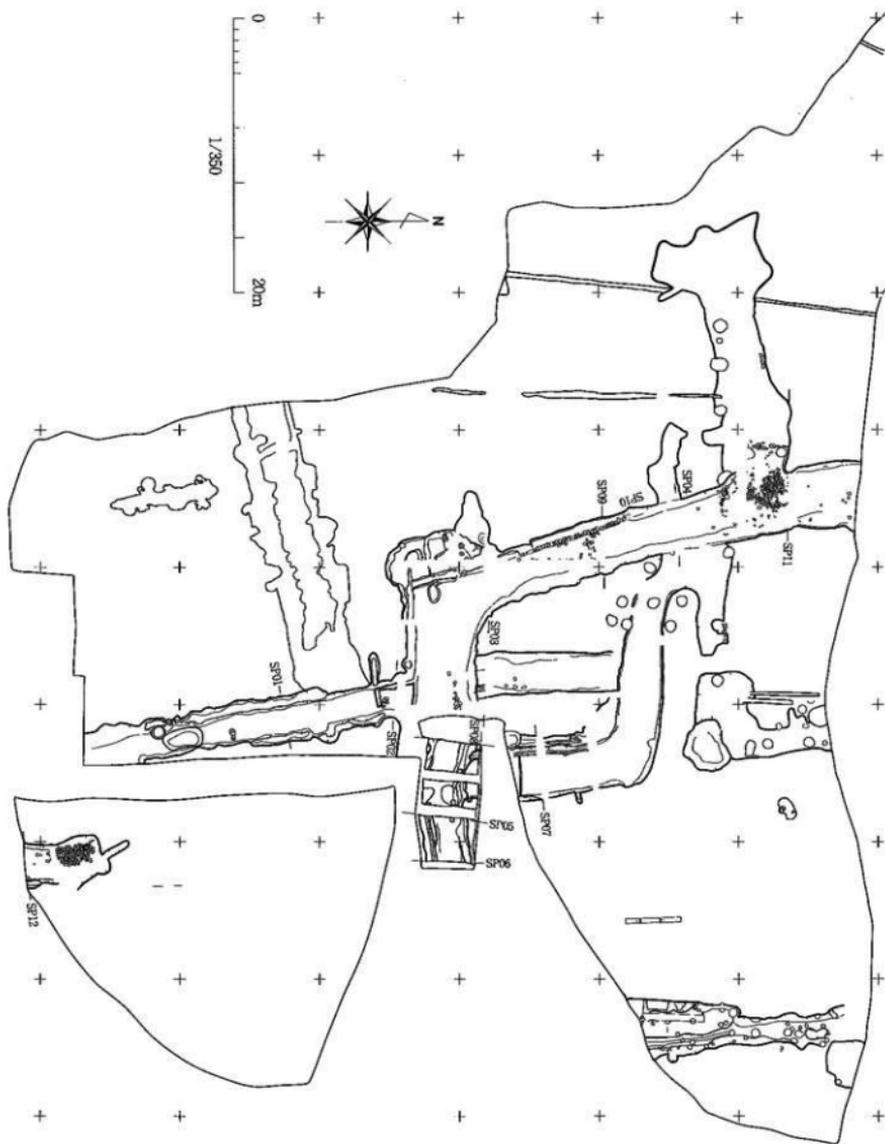
#### (1) 調査の概要

当発掘調査は公共座標系にグリッド線を一致させている。便宜的に東西方向を西から算用数字 (1, 2, 3...) で、南北方向を北からアルファベット (a, b, c...) でグリッドを呼称し、方位は真北を示している。

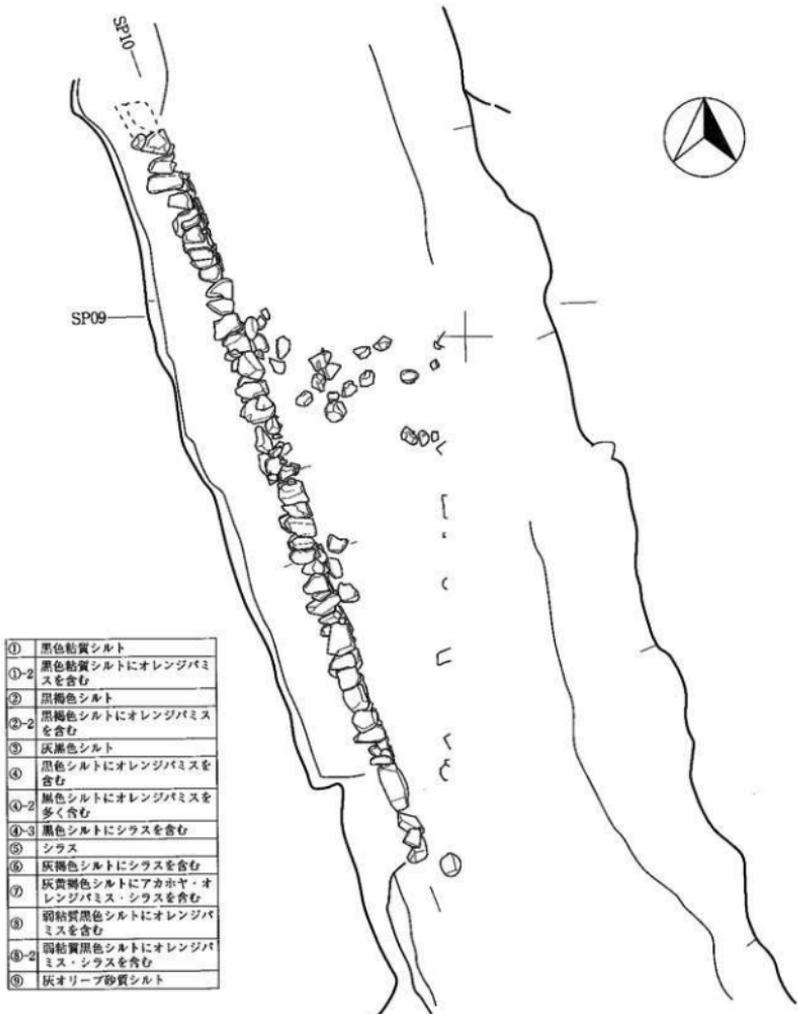
現池之上城跡の掘野部の面積は約14,500㎡、台地上は7,600㎡ほどを占める。調査範囲はおおよそ3,200㎡で、先述したように今回の調査は遺構の保存状況と分布の把握を目的としているため、道路遺構のみを掘下げ、柱穴、土坑や溝状遺構などは検出のみに留めている。なお、道路遺構や石積遺構などについては遺構図を作成



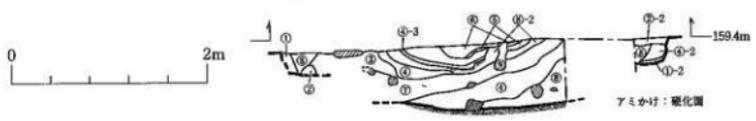
第2図 調査区域図



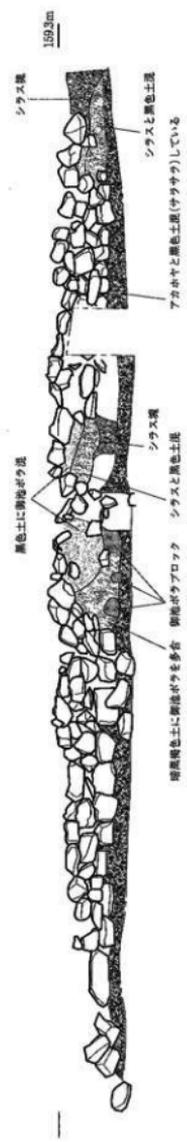
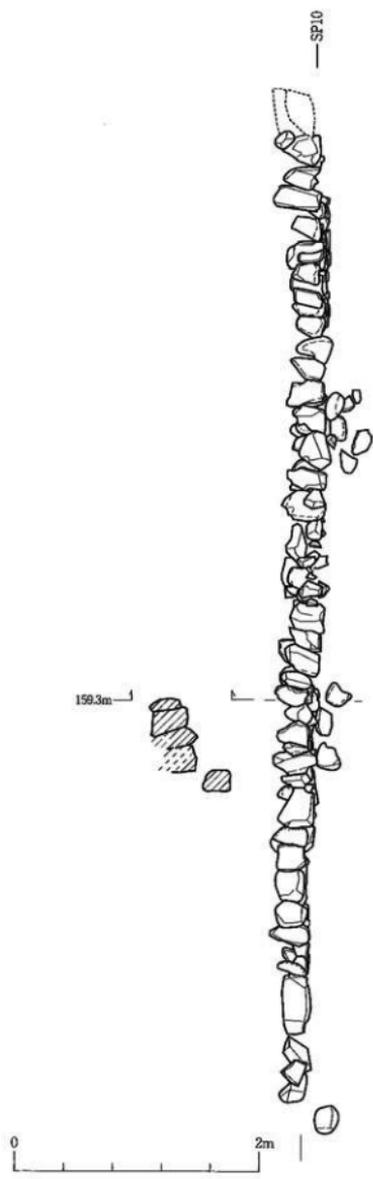
第3図 遺構配置図



①	黒色粘質シルト
①-2	黒色粘質シルトにオレンジバミスを含む
②	黒褐色シルト
②-2	黒褐色シルトにオレンジバミスを含む
③	灰黒色シルト
④	黒色シルトにオレンジバミスを含む
④-2	黒色シルトにオレンジバミスを多く含む
④-3	黒色シルトにシラスを含む
⑤	シラス
⑥	灰褐色シルトにシラスを含む
⑦	灰黄褐色シルトにアカホヤ・オレンジバミス・シラスを含む
⑧	弱粘質黒色シルトにオレンジバミスを含む
⑧-2	弱粘質黒色シルトにオレンジバミス・シラスを含む
⑨	灰オリブ砂質シルト



第4図 道路遺構と石積遺構



第5図 石積遺構 1

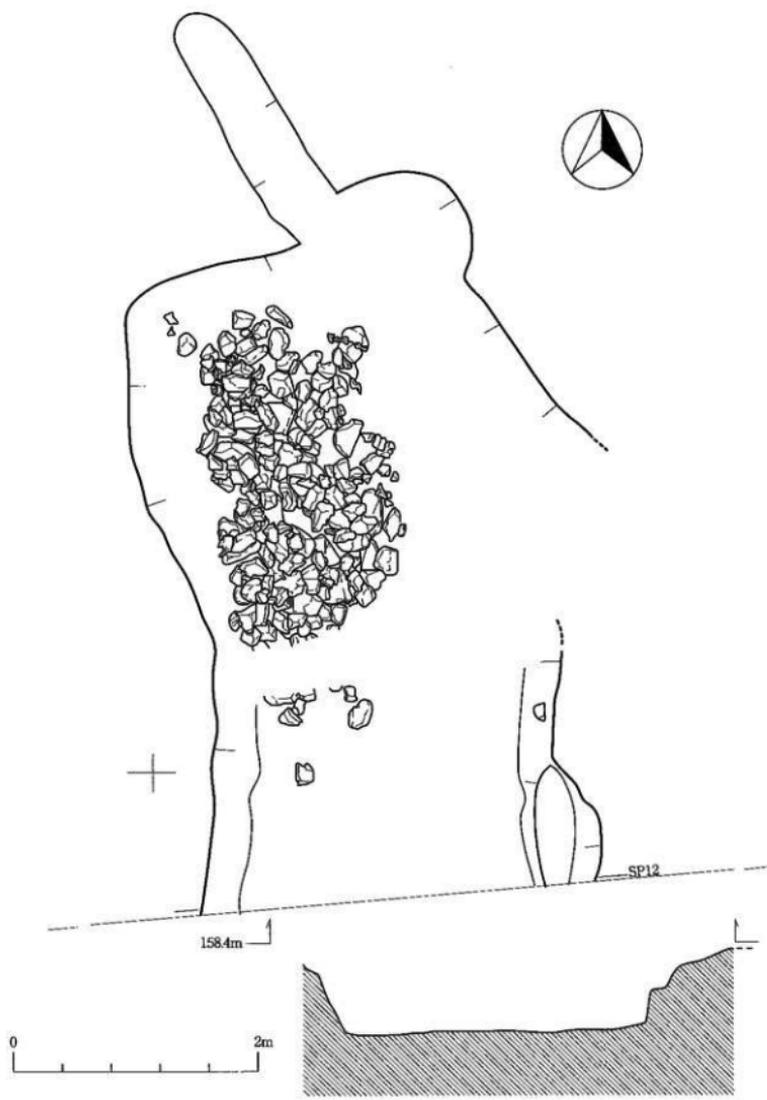


第6図 石溜まり-1

成したが、ほかの遺構については空中写真で概観を示すのみである。

遺跡の基本土層層序はシラス台地上であることから、市内の台地上に立地する遺跡と層序は同一であるが、複数回に及ぶ土地の改変により検出面や遺構埋土は微妙に変化する。中之城跡と主郭部調査の基本層序を各報告書より転記すると、中之城跡では「第Ⅰ層表土（耕作土）褐色をなし軟質である第Ⅱ層黒色土層 厚さ約30cm 第Ⅲ層ボラ層 降下軽石層で遺構のすべてが埋り込まれている 厚さは70cm 第Ⅳ層黒色土層 厚さ約30cm 第Ⅴ層黄褐色土（アカホヤ）層 厚さ約30cm 第Ⅵ層黒褐色土層 厚さ70cm 以下灰褐色土、橙色粘土層、砂礫層の順である。砂礫層は表土より約3.5mのところを確認された。」次に主郭部では「Ⅰ層公園整備による盛土 Ⅱ層灰オリブ色砂質層 Ⅲ層オリブ黒色砂質層 Ⅳ層灰白色パミス層（桜島文明降下軽石15世紀後半） Ⅴ層黒色粘質シルト層 Ⅵ層オレンジパミス層（御池降下軽石） Ⅳ層は中世の遺構・遺物の年代決定に有効であるが、非常に薄い部分的な堆積である。遺跡全体には認められない。また中世城郭期の遺構は、一般的にⅥ層上面でとらえることができるが、Ⅵ層の残存していないところにおいては、それ以下のアカホヤ層等で確認した。中世の遺物は主としてⅡ、Ⅲ、Ⅴ層に包含されている。」と表記されている。池之上城跡の調査においても御池ボラ層の上層黒色土層中が生活面である。現在の池之上城跡は略五角形状をなし、東面に二つの虎口が確認でき、西面には腰曲輪を備え台地上との比高差は5mほどを測る。

〔引用文献〕 都城市教育委員会『都城・中之城跡』p10 都城市文化財調査報告書 第3集 1983  
 都城市教育委員会『都之城跡（主郭部）』p12,13 都城市文化財調査報告書 第13集 1991



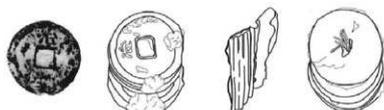
第7図 石溜まり-2



146-1



146-2



146-3



SP13



158.9m



第8図 銭貨出土状況および同実測図

## (2) 遺構について

平成3年の表面調査(縄張り調査)で東辺側に2箇所の虎口、西辺側と東辺側南位に腰曲輪を配していたことが確認されている。発掘調査は曲輪の北側にやや偏り、遺跡の保存状況と分布を把握する目的で実施されている。道路遺構の一部以外は検出面で調査を終了していることから全容については今後の調査を待ちたい。

道路遺構(SF)都合6条(調査時では8条)を確認した。便宜的に2箇所の虎口の南側を南虎口、北側を北虎口と呼称する。調査区域は北虎口を中心に広がっている。SF1とSF2の切り合いから虎口は南の方が早く造られたことがわかる。

**道路遺構1(SF1, SF5)**は北虎口から西へまっすぐ12mほど延び、北へ折れそのまま走行する。屈曲部は大きく膨らみ、さらに屋敷地の入り口と思われる突出箇所がある。d・e-6区で石積遺構1、c-6区で石溜まり1を検出している。道路の幅員は4~5m、深度は深いところで0.7m、北側の石溜まり付近では0.15mほどである。また、台地面すぐのSP06・07付近においては、幅員3.3~3.5m、深度1.3mほどの規模である。

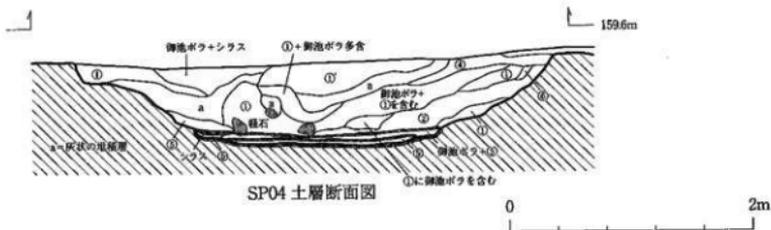
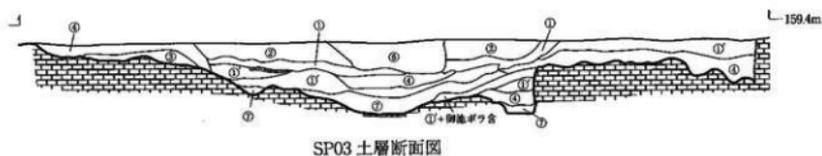
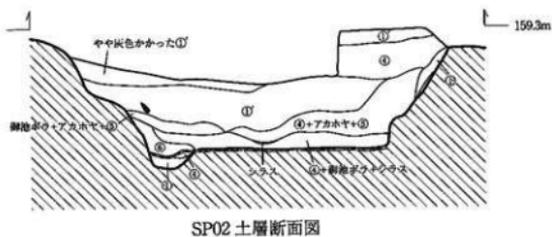
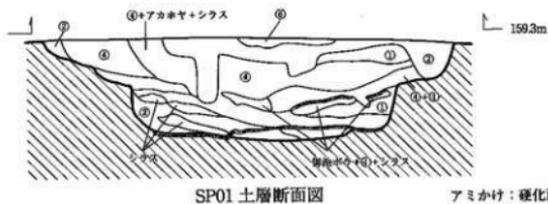
**道路遺構2(SF2, SF4)**は調査区南端より出現しそのまま北走する。道路遺構1、道路遺構6に切られている。曲輪への進入は南虎口を使用していたと思われる。道路の幅員はSP01で幅員3.4m、最深0.85m、SP04で幅員3.1m、中央付近で深さ0.35mほどを測る。また、SP02検出面で幅員上場3.3m、下場2m、深さ0.9mほどでしっかりとした断面台形状をなし、溝底のみに硬化面をもつことから初期段階に機能していたと思われる。

**道路遺構3(SF3)**も南虎口からほぼ直角に折れ北進する。石溜まり2が廃棄状態で検出された。幅員はSP12で幅員3m、深さは0.5mほどを測る。

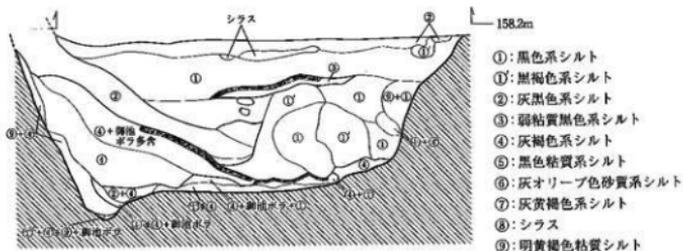
**道路遺構6(SF6)**は北虎口から北折れ、10mほど進み左にクランクし西走し、d-6・7で分岐する。終点は不定形に拡がり、西側部分は道路遺構1を切っている。終点付近は完掘していない。SP03で幅員は4.6m、深度は0.7mほどである。SP08土層断面図では掘底と中位に硬化面がある。道路遺構6を造成した段階とやや時期をおいて使用したことが窺える。

**道路遺構7(SF7)**はc・d-10区を南北に走行する。

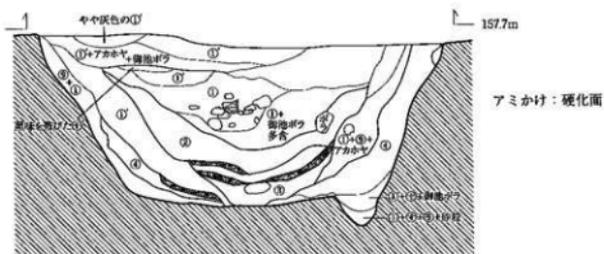
**道路遺構8(SF8)**はc-6区で道路遺構1から分岐し西走する。検出状態で終了している。



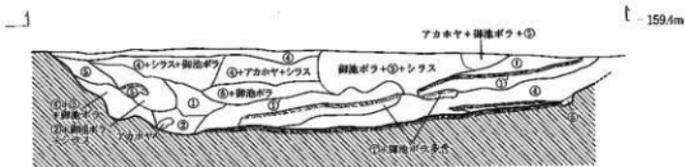
第9図 土層断面図-1



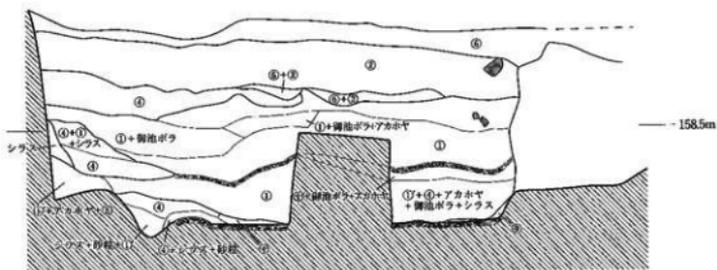
SP05 土層断面図



SP06 土層断面図



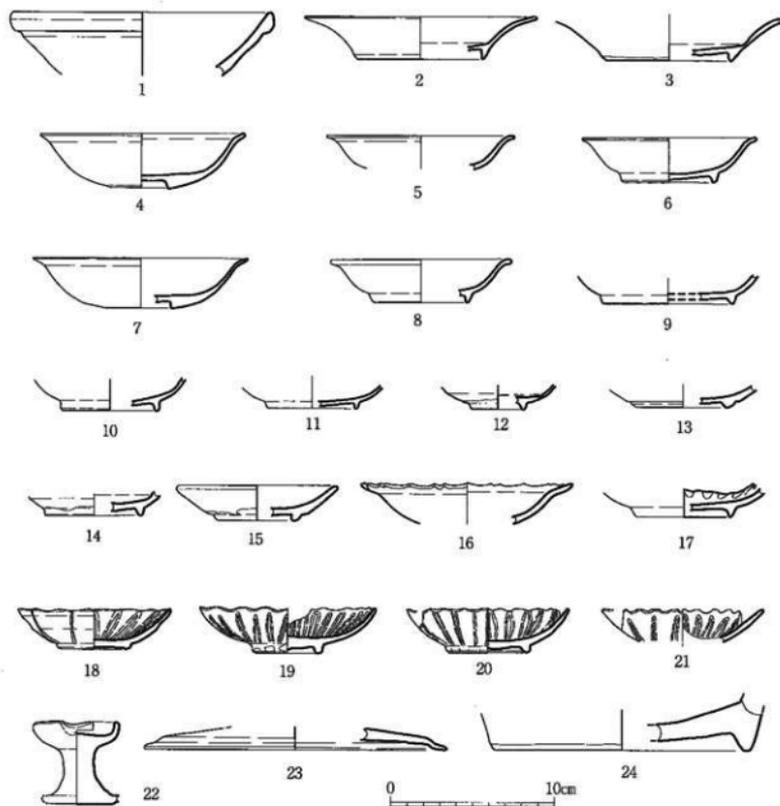
SP07 土層断面図



SP08 土層断面図



第10図 土層断面図-2



第11図 白磁

石組遺構1 (SS1) はd・e-6区に位置する。道路遺構5の西側端部より0.5mほど中央側に長さ8m、現存1～5段ほどに軽石が積み上げられている。土留め用と思われる。

石溜まり1 (SS2) はc-6区、SF5とSF8の合流付近に位置する。南北3m、東西6mほどの範囲に広がる。土留め用石積の廃棄状態と解している。

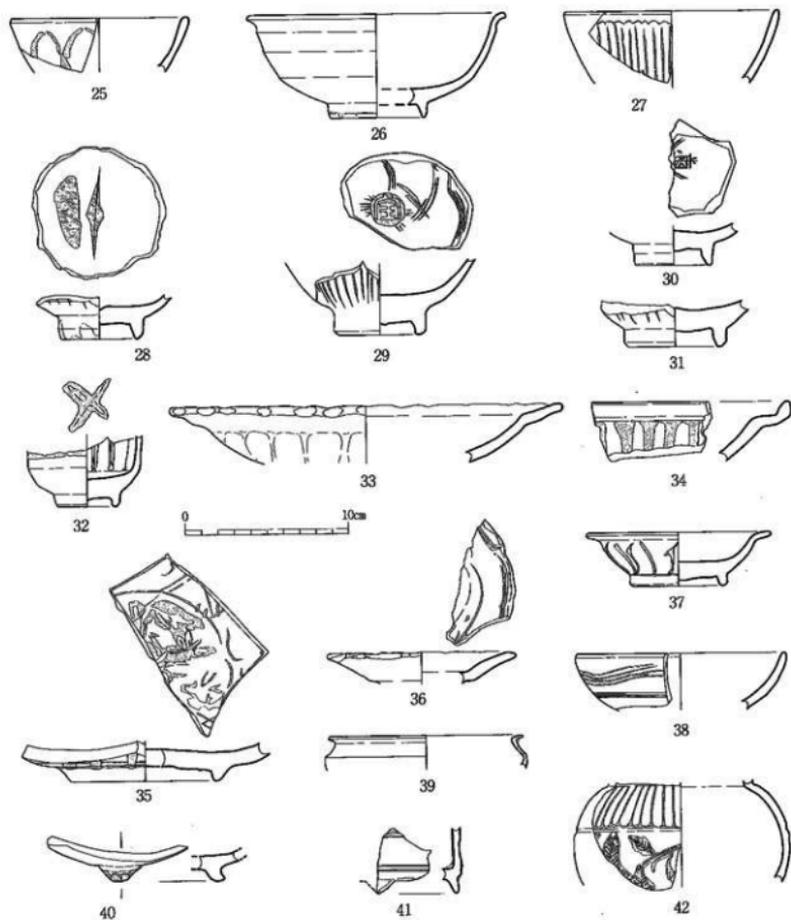
石溜まり2 (SS3) はh-9区、SF3内に南北2.5m東西1.5mほどに纏まっている。SS2同様石積の廃棄状態である。

續銭はh-9区北側で52枚の銭貨が出土した。このうち網が残存している銭貨は34枚と7枚塊である。ピット検出面上で確認されていることからピット内に流れ込んだと思われる。

(3) 遺物について

遺物は弥生土器、船載陶磁器、国内陶器、土師器、銭、瓦などが出土している。破片数としては青花が最も多い。主な遺物の分布については第23図に示した。

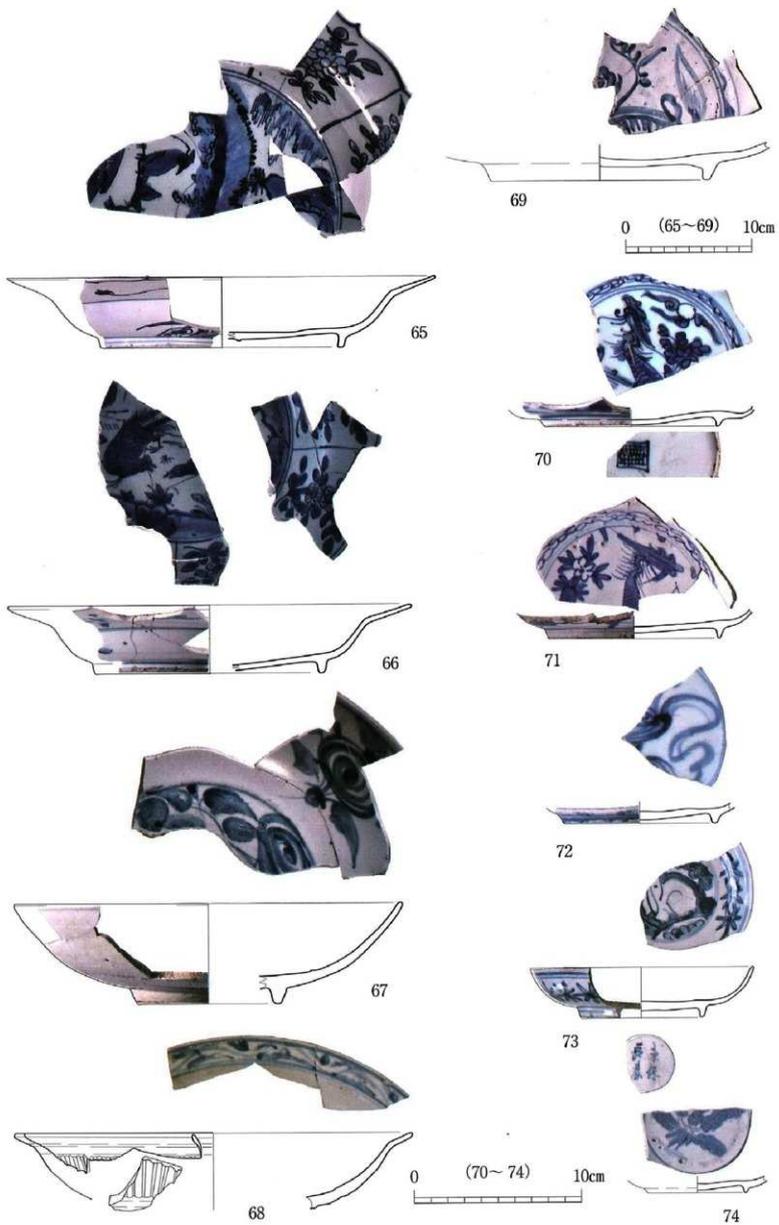
1の玉縁白磁は第2調査区2層より出土で大宰府編年白磁碗Ⅳ類。SF6(d-9区)東では、青花端反碗(44・46・50・55)、白磁端反皿(2・3)、備前すり鉢(128)などが集中している。それぞれ15世紀代、16世紀代、15世紀後半に比定される。



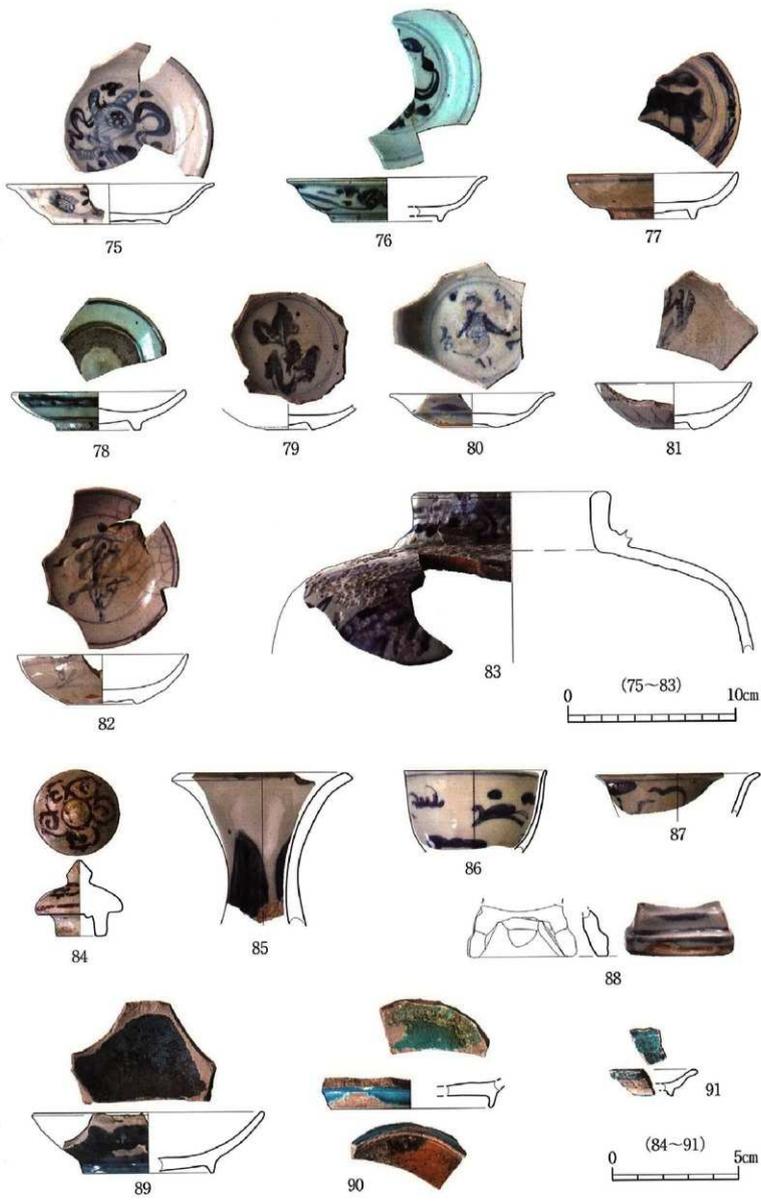
第12図 青磁



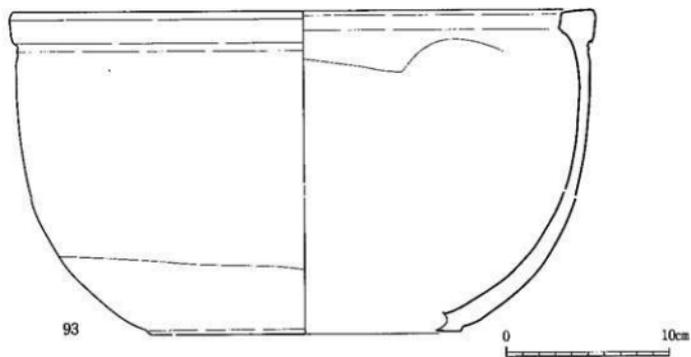
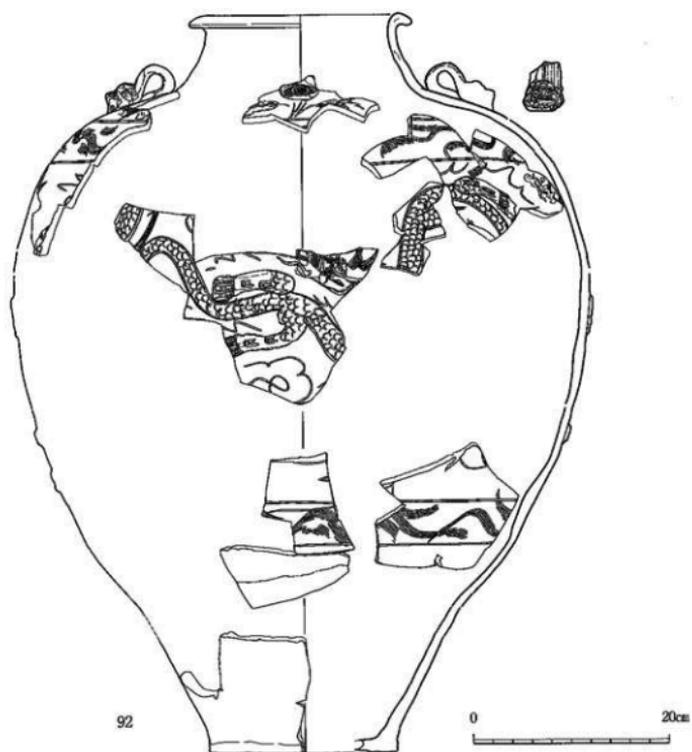
第13图 青花-1



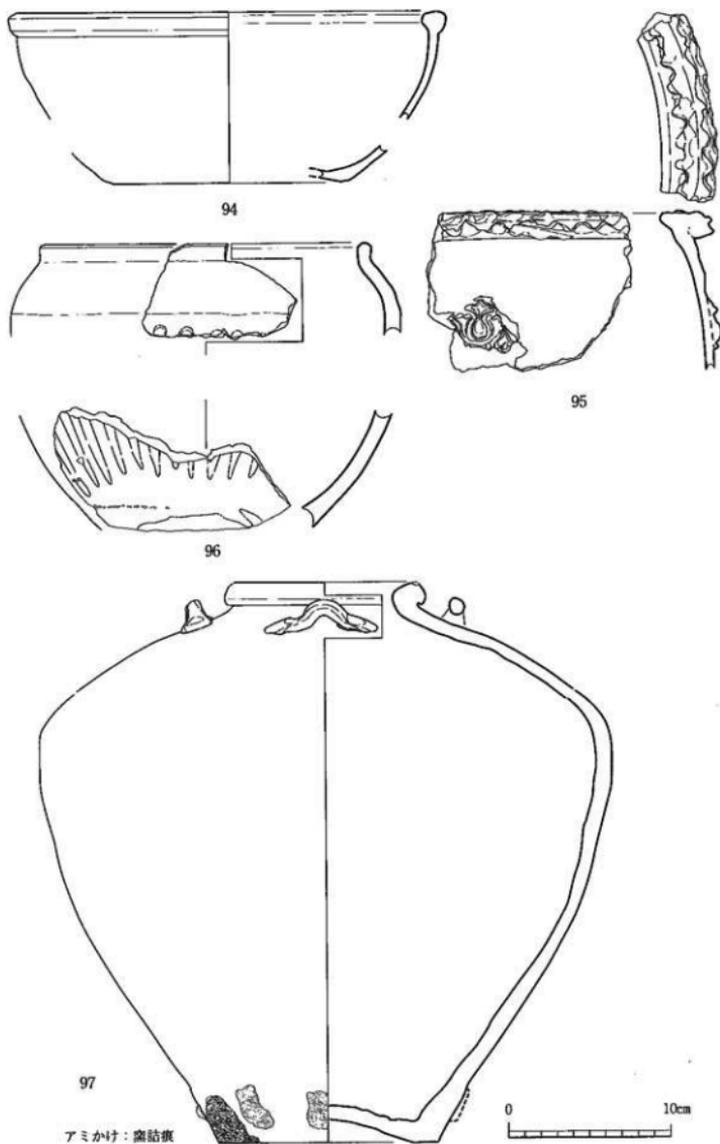
第14图 青花-2



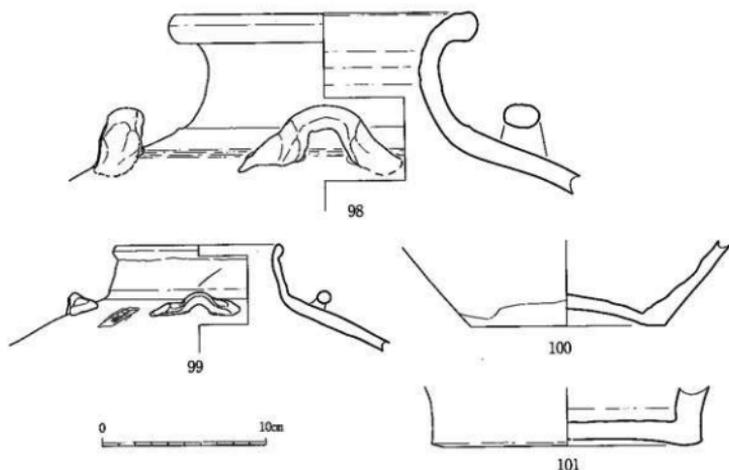
第15図 青花-3



第16图 船載陶器-1



第17図 船載陶器-2

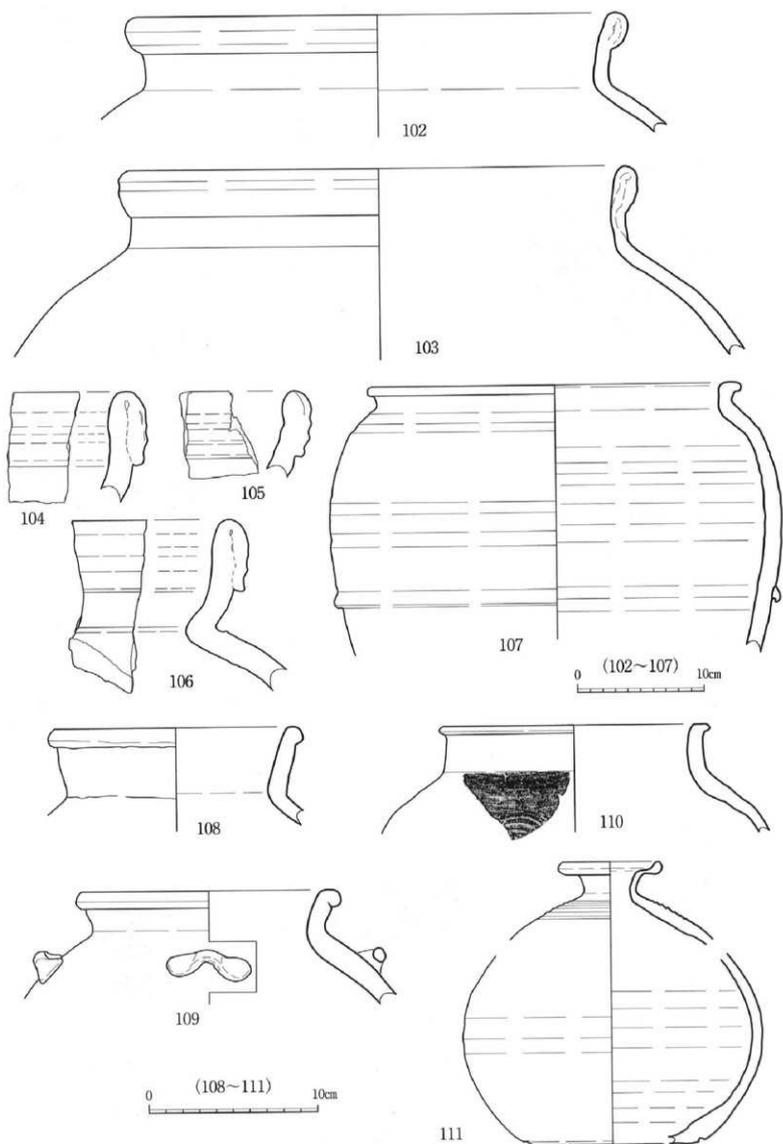


第18図 船載陶器-3

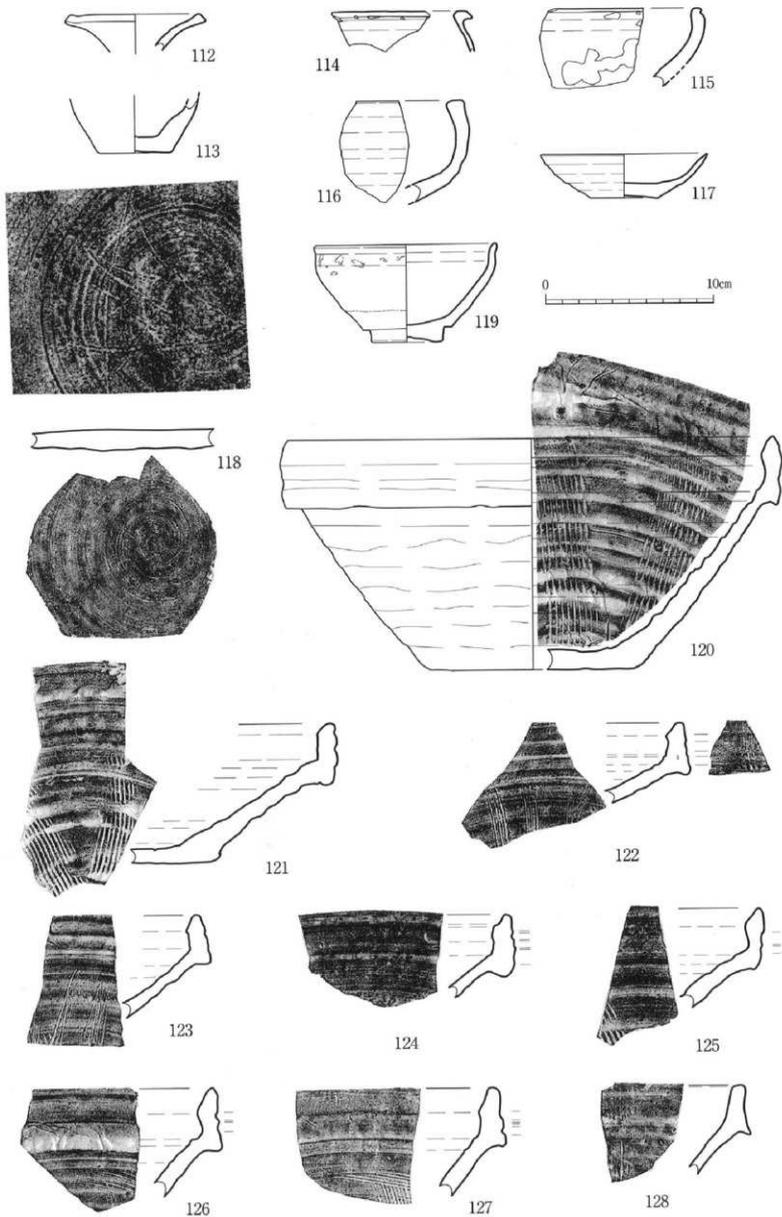
道路遺構をみると、出土数が少ない褐釉陶器はSF1から南に限定される。鉄軸龍貼付文を施した陶器壺(93)はSF1(e・f7)付近で褐釉陶器(93・94)、白磁(7・16)、青花(52・54・58・63)、備前(106)や土師器小皿(141・142)などと混在して出土している。鉄軸龍貼付は福建窯系で16世紀初頭から中葉、褐釉は16～17世紀、白磁皿は16世紀代、青花碗饅頭心型は16世紀後半、備前大甕は16世紀後半ほどと思われる。また、SF1からは16世紀の青釉陶器片も出土している。次にSF2(f・g8)付近で16世紀後半ほどに比定される褐釉陶器(97)を中心に青花の萼筒底小皿(82)、備前焼(111・117・122・126・138)、瀬戸美濃天目碗(119)、焙烙(135)や見込みに墨書(記号)を施した土師器小皿(144)など一部茶の湯の品々を含み集中している。また、SF2からは瓦質すり鉢(137)や土師器坏(143)もみられる。SF7からは蓮弁に鏝をもたない青磁碗(25)、龍泉窯系青磁盤(34)や漳州産の五彩水注蓋(84)などが出土している。

近世初頭ではSF8とその南SF6(d・6区)に薩摩焼(129～131)がみられる。

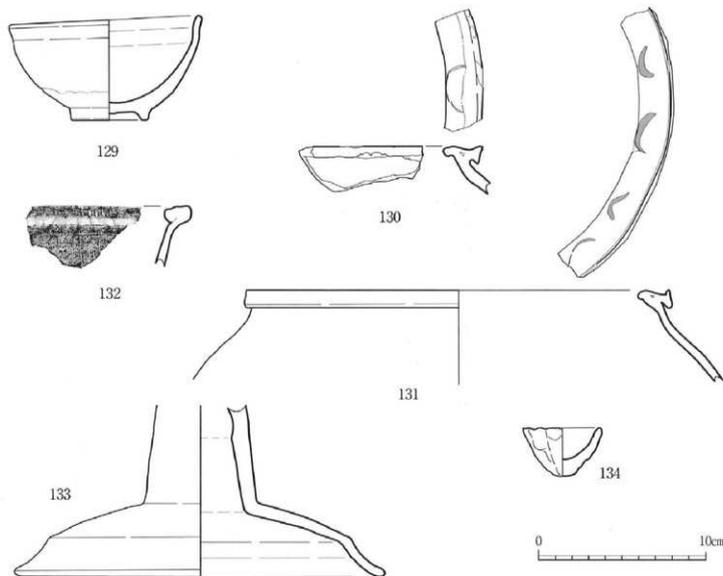
このほか銭貨52枚が第2調査区(h・9)ピット内から出土している。錆化のため定かではないが表に明鏡の洪武通宝の銭文したものと背面に「治」を銭出した加治木銭が出土している。



第19図 備前-1



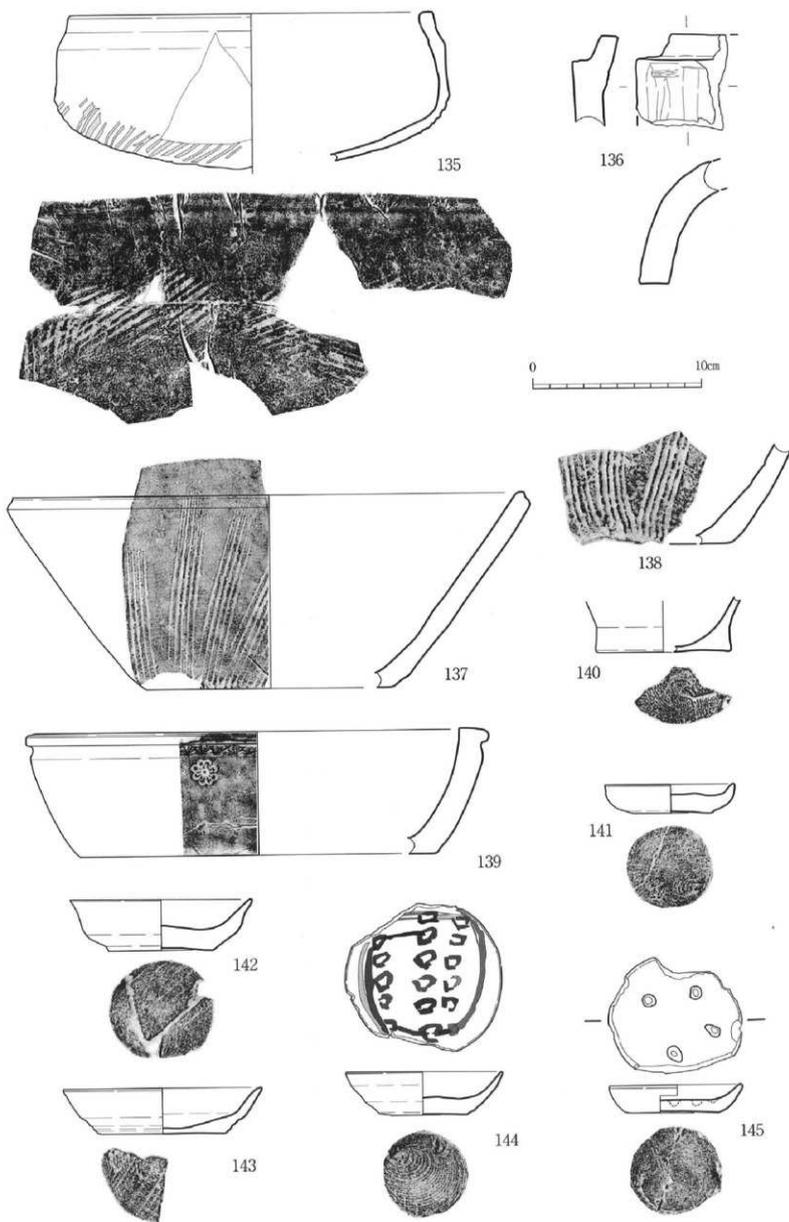
第20図 備前-2



第21図 国産陶器・土器

図版 番号	番号	器種	取上げ 番号	グリッド	遺構 層位	法量 (cm) (反転復元)			備考	X座標	Y座標	Z値	
						口径	底径	器高					
第 11 図	1	白磁碗		第2調査区	2層	(15.8)	-	-	玉縁口縁				
	2	白磁皿	1978-1 2001-1	d-9		(16.4)	(9.0)	3.1		230.937 230.863	221.364 223.920	159.294 195.276	
	3	白磁皿	1976-1	d-9		-	(8.2)	-		230.351	221.444	159.273	
	4	白磁皿	941	f-8	sf1	14.0	3.4	3.6	葎筒底	218.385	210.000	158.452	
	5	白磁皿	98	f-8		(12.5)	-	-		210.218	210.152	158.627	
	6	白磁皿				sf6	(13.6)	(8.0)	3.0	森田分類 E-2b類			
	7	白磁皿	937 1025 2685	f-8 e-7 e-7			(14.0)	(4.0)	3.5	葎筒底	218.125 220.235 220.240	210.000 207.878 205.483	158.452 158.720 158.223
	8	白磁皿				sf6	(12.4)	(7.2)	3.2	森田分類 E-2b類			
	9	白磁皿			第2調査区	北西	(11.8)	(6.8)	2.9	森田分類 E-2b類			
	10	白磁皿	1982	d-9			(10.2)	(7.3)	2.5	見込鉢ノ目軸測ぎ体部下 半露胎	230.125	222.207	159.251
	11	白磁皿					(10.2)	(5.6)	2.45	福建系 内外体部下半露胎			
	12	白磁皿	1190	h-6			-	(3.6)	-		198.640	198.668	159.271
	13	白磁皿	498	f-7			-	(6.8)	-		217.568	202.356	158.921
	14	白磁皿	876	e-7			-	(5.8)	-	見込鉢ノ目軸測ぎ	222.919	200.014	159.076
	15	白磁皿				sf1	(11.2)	(6.2)	2.3	内外体部下半露胎			
	16	白磁皿	1674 1693	f-7			(11.2)	-	-	輪花 二次焼成	231.961 219.938	199.611 206.390	158.942 158.622
	17	白磁皿	2776	f-8			-	(5.8)	-	森田分類 E-2b類	218.346	219.010	157.576
	18	白磁皿				sf7	(9.3)	(4.5)	2.5	菊皿 高台内無袖			
	19	白磁皿	725	e-7			(10.8)	(4.3)	2.85	菊皿 高台内無袖	222.887	202.918	158.966
	20	白磁皿	4468	c-6			(10.0)	(4.8)	2.75	菊皿 高台内無袖	242.963	196.120	158.919
	21	白磁皿					(10.0)	-	-	菊皿			
	22	白磁 仏飯器	250	f-7			5.2	5.1	-		212.429	208.361	159.301
	23	白磁蓋					(18.6)	-	-				
	24	白磁壺	2168			sf1	-	(15.8)	-	高台無袖			

表1 出土遺物観察表①



第22図 その他の出土遺物

図版番号	番号	器種	取上げ番号	グリッド	遺構階位	法量 (cm) (反転復元)			備考	X座標	Y座標	Z値
						口径	底径	器高				
第12回	25	青磁碗	2169	d-10		(10.8)	-	-	滲弁文	239.227	234.49	158.935
	26	青磁碗	1683	d-6		(15.6)	(5.8)	6.5	滲反り 高台内無輪	239.672	191.168	159.269
	27	青磁碗	2304	d-7	sf6	(13.0)	-	-	剣先滲弁文	233.259	207.085	159.099
	28	青磁碗	1904	f-8		-	4.6-4.7	-	剣先滲弁文 見込み切り込み状の滲	214.347	210.751	158.518
	29	青磁碗	4495	c-6		-	(5.0)	-	見込みに「宝」?の印花 内へラ指文 外へ剣先滲弁文	241.259	193.011	158.9
	30	青磁	724	c-7		-	(4.6)	-		223.096	202.768	159.062
	31	青磁碗	1090	e-8		-	(11.6)	-	見込み-印花 剣先滲弁文 焼成不良	220.454	210.549	158.467
	32	青磁碗	135	f-8		-	3.6-3.8	-	官窠写し 15c	212.288	210.747	158.857
	33	青磁盤	1321 1336 1337	g-7 g-7 g-7	sf5	(24.2)	-	-	口縁模文	207.519 204.647 204.508	204.171 205.622 205.745	159.288 159.257 159.251
	34	青磁盤	2168	c-10		(29.6)	-	-	瓶蓋系系 内面へラ彫り	241.095	234.541	159.052
	35	青磁盤	1150	d-7		-	-	9.0		230.982	207.420	159.190
	36	青磁皿	1291 1292	f-6 f-6		(11.6)	-	-	輪花	213.332 213.322	194.894 194.832	159.352 159.352
37	青磁皿	2601	f-7		(11.4)	4.35-4.45	5.6	滲反り口縁 見込み-印花 外へ滲弁	217.149	200.769	158.881	
38	青磁碗	530	f-7	sf5	(12.8)	-	-	外へラ指文	218.439	201.114	158.973	
39	青磁	2720 2722	f-8 f-8		(12.0)	-	-		219.574 219.875	215.473 215.405	158.514 158.492	
40	青白磁 香炉				sf1	-	-					
41	青磁 香炉	1341	h-7		-	-	-	二次焼成	197.777	209.289	159.134	
42	青磁惣煎合子	1376	d-6		-	-	-		237.403	196.849	159.096	
43	青花 碗	1088	e-8	sf1	-	-	-		220.761	210.075	158.545	
44	青花 碗	2037	d-9		-	-	-	滲反り口縁	231.150	222.817	159.230	
45	青花 碗	837	e-7	sf5	-	-	-	滲反り口縁	225.697	200.843	159.240	
46	青花 碗	4559	e-9		(12.4)	-	-	滲反り口縁	229.919	221.252	159.246	
47	青花 碗				sf4	-	-	滲反り口縁				
48	青花 碗	499	f-7	sf1	-	-	-	蓮子形碗 芭蕉楽文	217.493	202.153	158.638	
49	青花 碗	4547	c-7		(14.5)	-	-		242.015	204.646	159.233	
50	青花 碗	1975 1976-2 1985	d-9 d-9 d-9	sf1	(11.2)	(4.6)	-	滲反り口縁	230.491 230.531 230.335	221.520 221.444 222.594	159.248 159.273 159.245	
51	青花 碗				sf5	(5.4)	-	蓮子形碗				
52	青花 碗	1024	e-7	sf1	-	(5.4)	-	滲反り口縁 見込み「福」字	220.166	207.682	158.434	
53	青花 碗	2125	d-9		-	(3.0)	-	饅頭心の底部 見込み梵文	235.170	229.398	159.228	
54	青花 碗	2682	f-7	sf1	-	(3.0)	-	饅頭心の底部 見込み梵文	219.967	206.153	158.133	
55	青花 碗	1994	d-9		-	(4.2)	-	滲反り口縁 見込み玉取獅子文	230.507	223.827	159.218	
56	青花 碗	344	f-7	sf1	-	(4.8)	-	滲反り口縁	218.542	208.526	158.139	
57	青花碗	1232	g-6		-	-	-	腰折碗	207.801	198.783	159.247	
58	青花碗	960	e-6	sf1	-	(5.0)	-	饅頭心の底部 見込み如意雲	220.459	205.935	158.674	
59	青花碗	1670	d-6	sf5	-	(5.0)	-	饅頭心の底部 見込み如意雲	231.347	199.350	159.097	
60	青花碗	228	f-7	sf2	-	(5.0)	-	饅頭心の底部 高台内「大明宣徳年製」	212.897	209.671	159.237	
61	青花碗	33	g-7	sf2	(14.2)	(4.8)	5.2		208.818	209.380	159.177	
62	青花小鉢	1071	e-7	sf1	(19.4)	-	-	口縁輪花	220.405	209.419	158.374	
63	青花小鉢	1703	e-7	sf1	(18.5)	(6.9)	7.5	見込み白さぎ	220.642	207.815	158.392	
64	青花小鉢	4478	c-6	sf5	(18.2)	(6.5)	7.0	見込み龍ノ目輪貫ぎ	241.781	196.695	158.887	

表2 出土遺物観察表②

図版番号	番号	器種	取上げ番号	グリップ	遺構層位	法量 (cm) (反転復元)			備考	X座標	Y座標	Z値
						口径	底径	器高				
14	65	青花皿	388	f-7	sf1	(34.0)	(19.0)	5.55	口縁輪花 「つば皿」 小野分類 (染付皿F群)	218.160	209.353	158.039
			396	f-7						217.995	209.424	158.099
			398	f-8						218.079	210.031	159.162
			993	e-7						220.428	206.223	158.706
			1346	f-6						215.535	197.476	159.375
	66	青花皿	824	e-7	sf5	(32.0)	(18.0)	5.4	口縁輪花 「つば皿」 小野分類 (染付皿F群)	225.079	200.358	159.007
			1080	f-8						219.874	210.013	158.713
			2665	c-6						223.662	199.666	159.181
			337	f-7						218.875	207.987	158.015
			1476	f-8						219.984	210.452	158.674
	2664	e-6	223.625	199.611	159.198							
	67	青花皿	580	e-7	sf1	(30.4)	(11.3)	7.95		221.402	203.164	158.949
			944	f-7						218.838	209.830	157.991
			2767	f-8						218.000	216.298	157.827
1974			d-9	230.561						221.381	159.276	
4558			d-9	230.356						221.611	159.234	
4560	d-9	230.403	220.984	159.254								
69	青花皿	643	f-7	sf5	-	(17.2)	-		219.952	202.534	159.041	
		1687	f-7						219.996	205.730	158.643	
		414	f-8						217.541	210.260	159.085	
		2275	d-8						233.654	212.261	159.148	
		4583	f-8						217.799	213.298	157.85	
72	青花皿	4461	c-6	-	-	(9.0)	-	見込み-玉取獅子	248.263	193.812	159.029	
		1808	g-8						205.118	213.530	159.123	
		1920	f-8						218.106	210.242	157.917	
		4472	c-6						242.329	196.662	158.902	
		4475	c-6						241.620	196.978	158.935	
76	青花皿	4477	f-8	sf1	(12.0)	(6.6)	2.6	端反り口縁 見込み玉取り獅子文 高台内砂浴着	219.796	210.444	158.618	
		4480	f-7						219.882	203.795	158.612	
									219.952	202.534	159.041	
									219.996	205.730	158.643	
									217.541	210.260	159.085	
77	青花皿			sf1	(12.0)	(5.0)	2.7		219.952	202.534	159.041	
									219.996	205.730	158.643	
									217.541	210.260	159.085	
									233.654	212.261	159.148	
									217.799	213.298	157.85	
78	青花皿	1477	f-8	sf1	(10.4)	(5.0)	2.3	見込み蛇ノ目輪割ぎ 高台砂目模覆有 染付皿C群	219.796	210.444	158.618	
		1734	e-7						222.876	201.551	158.854	
		483	f-7						217.127	202.075	158.794	
		1168	b-6						191.485	195.882	159.118	
		33	g-7						206.818	209.389	159.177	
82	青花皿	59	g-7	sf2	(10.2)	(4.2)	2.95	見込み「露」文字 巻筋底 染付皿C群	209.578	209.708	159.171	
		60	g-7						209.641	209.721	159.141	
		340	f-7						218.989	208.362	158.370	
		870	e-7						222.509	200.898	158.965	
									219.952	202.534	159.041	
84	水注蓋			sf7	1.9	庇徑3.5	3.0	漳州 五彩	219.952	202.534	159.041	
		206	f-8						213.878	210.47	159.134	
		2067-①	c-9						243.578	222.006	159.323	
									217.127	202.075	158.794	
									191.485	195.882	159.118	
85	青花瓶			sf2	(7.1)	-	-		219.952	202.534	159.041	
									213.878	210.47	159.134	
									243.578	222.006	159.323	
									217.127	202.075	158.794	
									191.485	195.882	159.118	
86	青花小坏			sf1	(6.4)	-	-		219.952	202.534	159.041	
									213.878	210.47	159.134	
									243.578	222.006	159.323	
									217.127	202.075	158.794	
									191.485	195.882	159.118	
87	青花小坏			sf1	(6.4)	-	-		219.952	202.534	159.041	
									213.878	210.47	159.134	
									243.578	222.006	159.323	
									217.127	202.075	158.794	
									191.485	195.882	159.118	
88	青花			sf5	-	-	-	器形不明台座? 染付無軸	219.952	202.534	159.041	
									213.878	210.47	159.134	
									243.578	222.006	159.323	
									217.127	202.075	158.794	
									191.485	195.882	159.118	
89	青釉小皿			sf1	(9.2)	(5.2)	2.4	青釉陶器 二次焼成	219.952	202.534	159.041	
									213.878	210.47	159.134	
									243.578	222.006	159.323	
									217.127	202.075	158.794	
									191.485	195.882	159.118	
90	青釉小皿			sf1	-	(6.3)	-	青釉陶器 高台内は透明釉で焼付は 釉を掻き取る 二次焼成	219.952	202.534	159.041	
									213.878	210.47	159.134	
									243.578	222.006	159.323	
									217.127	202.075	158.794	
									191.485	195.882	159.118	
91	青釉小皿			-	-	-	-	青釉陶器の型打ちの小皿 二次焼成	219.952	202.534	159.041	
									213.878	210.47	159.134	
									243.578	222.006	159.323	
									217.127	202.075	158.794	
									191.485	195.882	159.118	

表3 出土遺物観察表③

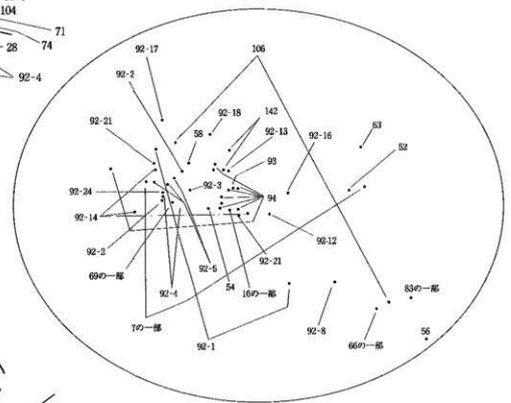
図版番号	番号	器種	取上げ番号	グリッド	遺構層位	法量 (cm) (反転復元)			備考	X座標	Y座標	Z値	
						口径	底径	器高					
第16図	92	大壺	測紙			19.6	18.9	77.0	鉄輪陶器付文 裾建燕糸 16世紀中				
			1745	e-7					225.623	200.500	158.961		
			1750	e-7					225.723	200.877	159.211		
			1751	e-7					225.698	200.909	159.197		
			1752	e-7					225.796	200.908	159.186		
			553	f-7					219.249	201.137	158.896		
			579	e-7					221.601	202.849	158.821		
			859	e-7					226.020	200.599	158.740		
			938	f-7					218.416	210.222	158.455		
			1001	e-7					220.163	206.425	158.663		
		1672	d-6					230.978	199.702	159.004			
		2609	e-7					221.739	202.073	158.693			
		2732	f-8					218.486	212.960	158.252			
第17図	94	鉢	570-15 1000 1033 1079 1471 1694 2683	e-7 e-7 e-7 e-7 f-7 f-7 e-7		sf1	(26.8)	(14.2)	-	褐輪陶器 内面に掛けた褐輪は口縁 内部で取まる 内唇部は無輪 外面は無胎 甕などと合わせ口にして 密接焼成 16~17世紀 南中国カインドシナ半島	221.736 220.159 220.178 220.059 219.965 219.972 220.454	202.076 206.372 206.466 209.620 206.482 206.276 206.216	159.038 158.635 158.675 158.666 158.640 158.593 158.148
	95	壺	1263 1265	f-6 f-6			-	-	-	212.563 212.584	190.094 190.090	159.328 159.347	
	96	壺	2728 4438 4440	f-7 h-9 h-9	北虎口	sf3 sf3	(19.6)	-	-	218.054 193.628 193.603	211.904 220.506 220.979	158.224 158.373 158.225	
	97	四耳壺	42 44 1833 2 15 48 54 109	g-7 g-7 g-8 g-7 g-7 g-7 g-7 f-8		sf2	(11.2)	13.5	-	208.211 208.131 207.688 208.150 208.721 208.979 208.095 208.372 211.856	209.356 209.590 211.778 208.917 208.651 208.651 209.423 209.077 210.011	159.195 159.216 159.123 159.165 159.175 159.189 159.157 159.132 158.908	
	98	四耳壺	914	e-6		sf5	(18.2)	-	-	226.156	199.043	158.781	
	99	四耳壺	4576	h-6	第3層		(10.0)	-	-	197.561	191.933	159.264	
	100	壺	65	g-8		sf2	-	(11.4)	-	208.316	211.133	158.594	
	101	壺				sf7 sf2	-	(15.0)	-				
	102	壺	1479 2421	f-7 e-7		sf1 sf5	(40.0)	-	-	219.935 225.279	203.774 200.402	158.585 158.762	
	103	壺	755 913 2790	e-7 e-6 e-6		sf5	(41.0)	-	-	223.707 228.335 229.376	200.850 198.388 198.940	159.203 158.735 158.906	
104	壺	2751	f-8		sf1	-	-	-	217.673	214.353	158.041		
105	壺	4515 4516	e-6 d-6			-	-	-	229.881 230.092	198.415 197.831	159.023 159.009		
106	壺	338 697 963 1002	f-7 e-7 e-7 e-7			-	-	-	218.906 220.767 220.669 220.022	208.080 202.376 205.798 206.296	158.182 158.538 158.953 158.902		
107	壺	496 532 631	f-7 f-7 f-7		sf1	(29.6)	-	-	217.428 217.840 219.235	202.951 202.606 201.940	158.830 158.768 158.712		
108	壺	905 1534	f-7 d-6		sf5	(13.4)	-	-	218.959 235.500	208.417 196.437	158.772 158.012		
109	壺	1532	d-6		sf5	(18.0)	-	-	235.524	196.144	158.879		
110	壺	706	e-7		sf1	(16.1)	-	-	221.629	203.697	159.031		
111	徳利	53 43 51	g-7 g-7 g-7		sf2	(5.6)	(9.8)	-	208.372 208.335 208.448	209.276 209.471 209.377	159.161 159.211 159.134		

表4 出土遺物観察表④



番号	取上り番号	遺物	x座標	y座標	z座標
92-3	570-7	sf 3	221.738	202.076	159.028
	977	sf 3	221.974	203.622	158.433
	785	sf 3	220.292	200.778	159.069
	1492	sf 5	220.266	203.916	158.629
	1554	sf 5	224.167	197.022	158.971
92-10	2407	sf 5	226.288	193.797	159.273
	570-10	sf 1			
92-11	753	sf 5	223.604	200.727	159.168
	207	sf 2	213.717	210.411	159.1
92-12	574	sf 5	223.43	197.893	158.973
92-13	636	sf 5	222.908	200.158	159.291
92-14	570-1	sf 1			
	570-2	sf 1			
92-15	1462	sf 1	220.411	205.583	158.698
	1472	sf 1	219.904	206.566	158.699
	1686	sf 1	220.243	205.578	158.641
	2688	sf 1	219.917	205.323	158.635
92-16	247	sf 1	219.004	208.779	158.228
92-17	1011	sf 1	220.134	207.02	158.645
92-18	977	sf 3			
	773	sf 3	220.29	206.659	158.643
92-19	940	sf 1	218.515	210.995	158.129
92-20	979	sf 1	220.769	206.163	158.806
92-21	1018	sf 1	220.28	206.374	158.655
92-22	1000	sf 1	220.077	206.659	158.631
92-23	1463	sf 1	220.368	205.51	158.698
92-24	1068	sf 1			
92-25	649	sf 1	219.438	204.215	158.845
92-26	990	sf 1	220.731	204.183	159.297
92-27	1466	sf 1	220.116	205.846	158.701

番号	取上り番号	遺物	x座標	y座標	z座標
92-1	531	sf 1	219.127	207.031	158.694
	717	sf 5	222.905	201.574	158.92
	965	sf 1	220.605	205.976	158.773
	699	sf 1	221.743	202.012	159.05
	1494	sf 1	220.389	205.667	158.669
92-2	1710	sf 1	220.946	205.648	158.517
	2356	sf 6	234.365	207.698	159.349
	2679	sf 2	214.572	209.707	158.36
	1485	sf 2	213.494	211.124	158.095
	1458	sf 1	219.974	208.942	158.627
92-4	1480	sf 1	220.114	205.675	158.666
	2748	sf 3	214.736	214.469	157.387
	536	sf 5	223.354	202.663	159.297
	570-5	sf 1	221.726	202.076	159.028
	600	sf 1	220.24	201.794	158.73
92-5	611	sf 1	219.293	203.532	159.111
	1461	sf 1	220.297	205.562	158.734
	1729	sf 1	220.22	205.798	158.618
	SP1埋土中				
	3463	sf 1	220.445	205.61	158.693
92-6	2168	sf 1	219.896	206.492	158.598
	1013	sf 1	220.38	206.574	158.655
92-7	1472	sf 1	219.904	206.566	158.699
	1642	sf 5	228.828	198.032	159.118
	4252	sf 1	219.033	207.625	158.436
92-9	570-6	sf 1	221.726	202.076	159.028
	2765	sf 1	218.267	216.464	157.983
	2789	sf 1	217.57	216.767	157.659
	2770	sf 1	218.111	217.146	157.823



第23図 埋蔵遺物分布図

図版番号	番号	器種	取上げ番号	グリッド	遺構層位	法量 (cm) (反転復元)			備考	X座標	Y座標	Z値
						口径	底径	器高				
第20図	112	瓶			sf1	(7.6)	-	-	備前112と113は同一個体			
	113	瓶			sf5	-	4.2	-	備前			
	114	小鉢				-	-	-	備前			
	115	平水指	1149	e-7	sf4	-	-	-	備前	229.119	207.216	159.139
	116	小鉢				sf5	-	-	備前			
	117	山茶碗	66	g-8	sf2	(4.9)	(4.0)	2.6	備前V期	208.718	211.355	158.551
	118	蓋	1559	d-6	sf5	-	-	-	備前 蓋印?	233.905	196.687	158.831
	119	天目碗	1684	f-8	sf2	10.8	4.0	6.3	瀬戸美濃 内反り高台高台周辺には錆輪の化粧掛け高台周辺を除き鉄輪16c 鉄平	212.200	210.112	158.873
	120	播鉢	1040	e-7	sf1	(28.8)	(12.0)	13.6~13.8	備前V A期	220.296	209.846	158.02
	121	播鉢	2283 2775	d-8 f-8	sf6 sf1	-	-	8.25	備前V期	231.268 218.914	213.337 218.364	159.258 157.755
	122	播鉢	67	g-8	sf2	-	-	-	備前V B期 口縁外面に傷目あり	208.522	211.994	159.122
	123	播鉢				sf1	-	-	備前V B期			
	124	播鉢	363	f-7	sf1	-	-	-	備前V B期	218.470	209.230	158.529
	125	播鉢	1186	b-6	-	-	-	-	備前IV B期	196.878	196.186	159.239
126	播鉢	72	g-8	sf2	-	-	-	備前V B期	209.588	212.196	159.15	
127	播鉢	946	f-7	sf1	-	-	-	備前V B期	218.511	209.326	158.123	
128	播鉢	2007	d-9	-	-	-	-	備前IV B期	230.005	224.960	159.252	
第21図	129	天目碗	1682	d-6		11.4	4.5	5.7~6.2	唐津	234.493	193.905	159.311
	130	甕	4534	d-6		-	-	-	口唇部に貝目痕有	239.321	187.741	159.315
	131	甕	4542	d-6	sf5	(25.2)	-	-	口唇部に貝目痕有	239.287	193.036	159.252
	132	柄鉢	1221	g-6	-	-	-	-		206.32	192.445	159.223
	133	高坏	2210	e-8	sf6	-	(22.0)	-		223.621	212.781	158.693
	134	ミニチュア	889	e-7	sf5	4.5~4.7	-	2.9	手づくね	227.851	201.146	159.093
	135	炮塔	1819 1849 1850 1851 1856 1876	f-8 f-7 f-7 f-7 f-7 f-7	sf2	(21.8)	-	-	土師質 茶道具 (灰器) 体部外面下部タタキ	216.041 211.348 211.510 211.675 211.844 212.326	212.159 209.833 209.758 209.821 209.665 209.620	158.483 158.507 158.524 158.512 158.766 158.546
第22図	136	瓦			sf1	-	-	-	丸瓦			
	137	播鉢	1782	g-8	sf2	(30.4)	(14.6)	(11.4)	瓦質	200.457	212.839	158.166
	138	播鉢	2677	g-8	sf2	-	-	-	瓦質	206.929	211.096	158.744
	139	火鉢	489 491 1679	f-7 f-7 d-6	sf1 sf5	(内-24.0) (外-27.6)	(21.0)	7.3	印花文 脚付	216.717 216.957 231.284	202.264 202.575 197.989	159.151 159.080 158.984
	140	坏				-	(8.0)	-	底部-糸切り			
	141	小皿	1087	e-8	sf1	7.5	5.0	1.7	底部-糸切り	220.688	210.032	158.536
	142	小皿	991 994	e-7 e-7	sf1	10.75	6.0~6.3	2.75~3.1	底部-糸切り 板状片痕	220.585 220.401	206.383 206.310	158.830 158.773
	143	坏	1787-1	g-8	sf2	11.7	7.6	2.7	底部-糸切り 板状片痕	203.668	212.373	158.648
	144	小皿	57	g-7	sf2	6.0~6.3	5.0	2.4~2.6	底部-糸切り 見込み蓋蓋	208.498	209.165	159.136
	145	小皿	1708	e-7	sf1	7.8	5.0	1.55~1.65	底部-糸切り 見込みに4ヶ所穿孔	220.285	205.191	158.537

表5 出土遺物観察表⑤

#### 4. 小結

今回の調査範囲は曲輪北側を中心に池之上城跡全体の1/2程度、調査成果は道路遺構のみ完掘し、それ以外の遺構は道路遺構検出面で調査を終了している。

虎口から続く道路遺構は切り合い関係等により3時期程度に区分変遷できる。1期(築城期)は道路2・4と3(SF2・4と3)、2期目は道路1・5と8(SF1・5と8)、3期目は道路6(SF6)の時期である。1期の道路2・4の土層断面図をみると、南からSP01、02、03では基本的には溝底ないし直上(初期段階)が硬化している。北側虎口付近とSF06ではSP06・05および08・07では道路当初の溝底と断面中位で硬化した部位が認められ、2時期にわたり使用され、またSF5のSP04では溝底と直上層が道路幅員分硬化していることから、継続的に長期間使用されたことがうかがえる。これら道路遺構に対応する各虎口の使用については南側の虎口(南虎口)が1期から、北側の虎口(北虎口)が2期および3期で使用されていたと思われる。16世紀前半から17世紀前半の一國一城令まで、八代忠相の築城から十二代忠能が領主館へ退くまでのおおよそ1世紀のなかで、築城時を含め3回の屋敷割りが行われたことになる。なお、軽石製の石積遺構については中之城跡や主郭部跡の調査でも出土し、土留めや区割り用に用いられたと思われる。

次に、遺物は15世紀以降のものが大半である。主なものをみると、出土数が少ない褐釉陶器はSF1から南に限定される。鉄胎龍貼付文陶器壺は褐釉陶器(93・94)と相伴し、SF1(e・f・7)を中心に広範囲に出土する。池之上城跡から出土した船載陶磁器は主郭部調査を超えるものはないが、褐釉陶器は平成19年度調査の中尾口南の八幡城遺跡からも出土し城外に広がる。船載陶磁器については、博多経由でもたらされたと思われるが、中国南部や東南アジア(タイ・ベトナム)産については琉球経由、16世紀後半以降では内の浦の存在も考慮しなければならない。また、出土例が少ない鉄胎龍貼付文壺は小片ではあるが松原地区第Ⅲ遺跡(郡元町)からも出土し、近接の祝吉遺跡(祝吉町)1次調査出土の緑釉除刺牡丹文水注(軟陶 15世紀末南中国産)などを含め都城との関係を今後検討する必要がある。またSF1やSF2などの道路遺構からの出土遺物は道路としての用途を失ったのちの屋敷地からの出土と解すべきと思われる。また、近世初頭(最終段階:3期)の陶器片や銭貨も散在する。土師器については6点掲載し、そのうち3点(141・142・145)がSF1、2点(143・144)はSF2からである。前者は鉄胎龍貼付を主体としたSF1(e・f・7)付近、後者は褐釉陶器(97)を中心としたSF2(f・g・8)付近で両者とも16世紀後半ほどに属年できる。

最後になりますが、掲載した遺物の評価については著者の認識不足は否めず、今後も調査成果の深化を図る必要があります。機会がありましたらご教示いただきたいと思います。

#### <主な参考文献>

都城市史 通史編 中世近世

『インドネシア・バンテン遺跡出土の陶磁器』大橋康二・板井隆 「国立歴史民俗博物館研究報告」第82集 1999

『博多87』「福岡市埋蔵文化財調査報告書」第758集 2004

『3中世後期の貿易陶磁器』續仲一郎「概説 中世の土器・陶磁器」中世土器研究会編

『中世陶器の物流-備前焼を中心として-』伊藤見ほか 2004年度広島大会 研究発表会資料集 日本考古学協会

『堺塚遺跡(SKT929)発掘調査概要報告』「堺市埋蔵文化財調査概要報告書」第117冊 2008・3

『堺塚遺跡都市遺跡発掘調査概要報告-SKT874-』-SKT900-』「堺市埋蔵文化財調査概要報告」第109冊 2005・10

『天界寺口』「沖繩県立埋蔵文化財センター調査報告書」第8集 2002・3

『祝吉遺跡』「都城市文化財調査報告書」第1集 1981

『松原地区第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡』「都城市文化財調査報告書」第7集 1989・3

『平成2年度 遺跡発掘調査概報 都之城跡(主郭部)』「都城市文化財調査報告書」第13集 1991・3

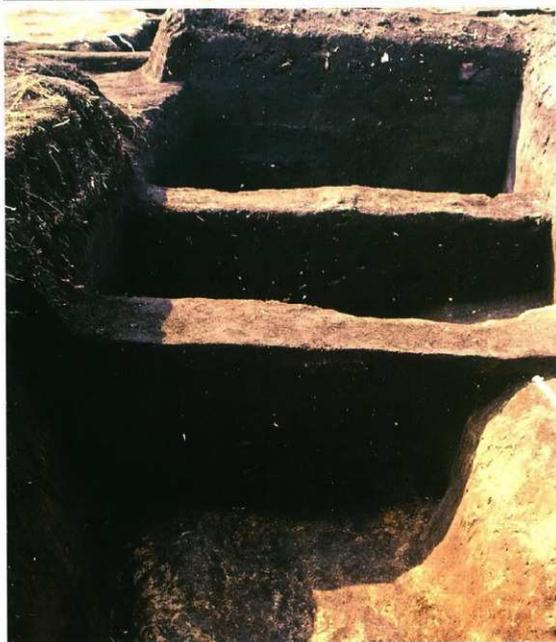
『八幡城遺跡』「都城市文化財調査報告書」第91集 2009







SF2



虎口

写真图版 4

